

厚生労働科学研究費補助金  
難治性疾患政策研究事業

網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究  
令和元年度 総括・分担研究報告書

研究代表者  
坂本 泰二

令和三(2021)年3月

# 目 次

I. 総括研究報告	5
網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究	6
鹿児島大学・医歯学域医学系・教授 坂本 泰二	
II. 分担研究報告	10
1. 萎縮型加齢黄斑変性に関する調査研究	11
研究分担者	関西医科大学・医学部・教授 高橋 寛二 東京女子医科大学・医学部・教授 飯田知弘 九州大学・大学院医学研究院・教授 園田康平 京都大学・医学研究科・教授 辻川明孝
2. 網膜色素変性に関する調査研究	13
研究分担者	千葉大学・大学院医学研究院・教授 山本 修一 宮崎大学・医学部・教授 池田 康博
研究協力者	順天堂大学・医学部・教授 村上 晶 株式会社ビジョンケア・代表取締役社長 高橋 政代 名古屋大学・医学部・教授 西口 康二 大阪大学・大学院医学系研究科・寄附講座教授 川崎 良 神戸アイセンター病院・副病院長 平見 恭介 長崎大学・医学部・講師 大石 明生
3. 黄斑ジストロフィに関する調査研究	16
研究分担者	三重大学・大学院医学系研究科・教授 近藤 峰生
研究協力者	名古屋大学・大学院医学系研究科・講師 上野 真治 東京医療センター・臨床研究センター・視覚生理学研究室・部長 角田 和繁 東京慈恵会医科大学・葛飾医療センター・准教授 林 孝彰

4. 近視性脈絡膜萎縮に関する調査研究 ----- 18
- 研究分担者 東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究科・教授 大野京子  
九州大学・大学院医学研究院・教授 園田 康平  
旭川医科大学・医学部・客員教授 柳 靖雄
- 研究協力者 京都大学・医学研究科・特定助教 三宅 正裕  
大阪大学・大学院医学系研究科・寄附講座教授 川崎 良  
鹿児島大学病院・感覚器センター眼科・医員 白澤 誠
5. 家族性滲出性硝子体網膜症に関する調査研究 ----- 20
- 研究分担者 産業医科大学・医学部・教授 近藤 寛之
- 研究協力者 近畿大学・医学部・教授 日下 俊次  
国立成育医療研究センター・眼科診療部長 仁科 幸子  
大阪大学大学院医学系研究科・寄附講座教授 川崎 良  
山形大学・大学院医学系研究科・講師 金子 優
6. 黄斑部毛細血管拡張症 2 型に関する調査研究 ----- 23
- 研究分担者 東京女子医科大学・医学部・教授 飯田 知弘  
京都大学・大学院医学研究科・教授 辻川 明孝  
旭川医科大学・医学部・客員教授 柳 靖雄  
琉球大学・大学院医学研究科・教授 古泉 英貴
7. 急性帯状潜在性網膜外層症に関する調査研究 ----- 25
- 研究分担者 九州大学・大学院医学研究院・教授 園田 康平  
三重大学・大学院医学系研究科・教授 近藤 峰生  
東京女子医科大学・医学部・教授 飯田 知弘
- 研究協力者 東京慈恵会医科大学眼科学教室・准教授 林 孝彰
8. レーベル遺伝性視神経症に関する調査研究 ----- 27
- 研究分担者 神戸大学・大学院医学研究科・教授 中村 誠
- 研究協力者 北里大学・医療衛生学部・視覚機能療法学・教授 石川 均  
兵庫医科大学・医学部・講師 石川 裕人

9. 視覚身体障害者認定の実態疫学調査	----- 29
研究分担者	鹿児島大学・医歯学域医学系・教授 坂本 泰二
研究協力者	岡山大学・大学院医歯薬学総合研究科・教授 森實 祐基 大阪大学・大学院医学系研究科・寄附講座教授 川崎 良
Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表	----- 31

厚生労働科学研究費補助金  
難治性疾患政策研究事業  
総括研究報告書

網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究

研究代表者 坂本 泰二 鹿児島大学・医歯学域医学系・教授

研究要旨：眼科疾患の中には、罹患率が低く、治療法が確立されていない、希少難治性疾患が存在する。このような疾患については、医療の標準化がおこなわれておらず、眼科医における認知度も低いため、本邦における罹患状況の詳細は不明である。そこで、希少難治性眼疾患の診断基準の策定と、診断基準に基づく疫学調査による現状の把握が必要である。

本研究では、萎縮型加齢黄斑変性、網膜色素変性症、黄斑ジストロフィ、近視性脈絡膜萎縮、家族性滲出性硝子体網膜症、黄斑部毛細血管拡張症 2 型、急性帯状潜在性網膜外層症、およびレーベル遺伝性視神経症を研究の対象とし、疾患毎に研究グループを形成して研究計画を進める体制とする。また、難治性眼疾患の多くは視覚身体障害の原因疾患と関連があるため、視覚身体障害の認定状況の全国調査を行い、難治性眼疾患患者に対する福祉行政の現状を把握する。

本研究の成果が、希少難治性眼疾患の現状把握と診療の標準化、そして現実に即した厚労行政の推進に寄与することが期待される。

研究分担者

飯田知弘（東京女子医科大学・医学部・教授）、大野京子（東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究科・教授）、古泉英貴（琉球大学・大学院医学研究科・教授）、近藤寛之（産業医科大学・医学部・教授）、近藤峰生（三重大学・大学院医学系研究科・教授）、園田康平（九州大学・大学院医学研究院・教授）、高橋寛二（関西医科大学・医学部・教授）、辻川明孝（京都大学・大学院医学研究科・教授）、中村誠（神戸大学・大学院医学研究科・教授）、柳靖雄（旭川医科大学・医学部・客員教授）、山本修一（千葉大学・大学院医学研究院・教授）、池田康博（宮崎大学・医学部・教授）

A. 研究目的

本研究はオールジャパン体制での希少疾患研究であり、視覚障害の原因疾患のうち、指定難病 3 疾患（網膜色素変性症、黄斑ジストロフィ、レーベル遺伝性視神経症）、ならびに指定難病候補の希少疾患であるが十分な情報が集積されていない 4 疾患（萎縮型

加齢黄斑変性、家族性滲出性硝子体網膜症、黄斑部毛細血管拡張症 2 型、急性帯状潜在性網膜外層症)、さらに類縁疾患である近視性脈絡膜萎縮を対象とし、各疾患の医療水準の向上を目的として、客観的な指標に基づく疾患概念の確立、診断基準や診療ガイドラインの策定および疫学調査を実施する。また、難治性眼疾患の多くは視覚身体障害の原因疾患と関連があるため、視覚身体障害の認定状況の全国調査を行い、難治性眼疾患患者に対する福祉行政の現状を把握する。

## B. 研究方法

本研究の対象とする疾患は多岐にわたるため、疾患毎に研究グループを形成して研究計画を進める体制とする（さらに各専門分野の研究協力者を募る）。並行して、全国視覚障害認定の実態疫学調査を実施する。研究代表者は研究全体を統括する。また、班会議を年に 2 回開催し、各グループの進捗状況を報告する。

（倫理面への配慮）

アンケート調査は個別の患者情報を抽出しないため倫理的問題は生じない。レジストリに関する研究にあたっては、疾患毎に代表機関における倫理委員会承認のもと登録を行った。また、遺伝子診断についても同様に、各施設での倫理委員会承認のもと解析を行った。疫学調査は、倫理委員会で審査を受けた上で実施した。なお、本研究で扱うデータは個人を特定できないデータのみである。

## C. 研究結果

網膜色素変性症のレジストリには約 3000 症例のデータが登録されている。登録された症例の解析により、遺伝形式の分布や、病因遺伝子の診断率や分布などが明らかとなった。また、難病プラットフォームへの移行に関連する倫理審査は、京都大学大学院医学研究科・医学部お呼び医学部附属病院 医の倫理委員会で令和 3 年 3 月に承認を受けた。引き続き、データ移行の準備を進めている。また、レーベル遺伝性視神経症のレジストリフォームを構築し、神戸大学の倫理委員会での承認を得たので、可及的速やかに共同研究施設の倫理委員会への申請を行う予定である。

黄斑ジストロフィと急性帯状潜在性網膜外層症では全国規模の患者数調査を実施し、それぞれの患者数が明らかとなった。また、レーベル遺伝性視神経症では全国規模で 2019 年の新規発症患者数の調査を実施中である。

萎縮型加齢黄斑変性については、現在まで分析できた症例データを論文化する。家族性滲出性硝子体網膜症については、4 大学病院（産業医科大学、近畿大学、慈恵医科大学、福岡大学）をコア施設として、これまで蓄積された症例について、臨床所見の再確認を行った。近視性脈絡膜萎縮については、メンデル遺伝形式に沿う家族集積性を有する症例が 5 家系抽出された。また、黄斑部毛細血管拡張症 2 型については、診療ガイドライン（案）を作成した。

視覚障害認定の実態調査実施し、全国の全ての福祉事務所から回答を得た。現在、データ解析を行っている。

#### D. 考察

診療ガイドラインの策定によって、施設間による診断のばらつきが小さくなり、患者の見落としが減るなど、医療の標準化が進み、医療の質が向上することが期待される。また、診療ガイドラインに沿って診断された患者の疾患レジストリへの登録が進み、疾患のさらなる理解が進むことが期待される。さらに、有病率調査や視覚身体障害認定状況の全国調査の結果は有効な医療福祉資源配分につながるといえる。

#### E. 結論

本研究で策定した診療ガイドラインおよび疫学データは日本眼科学会を通じて広く全国の眼科医に周知される。それにより難治性眼疾患に対する診療の標準化が進むことが期待される。また、わが国の希少難治性眼疾患に対する理解、疾病予防の啓発が進むことが期待される。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

1) Yang L, Joo K, Tsunoda K, Kondo M, et al; East Asia Inherited Retinal Disease Society Study Group. Spatial Functional Characteristics of East Asian Patients With Occult Macular Dystrophy (Miyake Disease); EAOMD Report No. 2. Am J Ophthalmol. 2021, 221, 169-180.

2) 近藤峰生. 黄斑ジストロフィの診断ガイドラインについて. OCLISTA 96 (増大号): 17-24. 2021.

3) 池田康博ら. 日本網膜色素変性レジストリプロジェクトに登録されたデータの解析. 日本眼科学会雑誌. 2021, 125 巻 4 号: 425-430.

4) 森實祐基ら. 視覚障害認定の全国調査結果の都道府県別検討. 日本眼科学会誌 124 巻: 697-704, 2020.

##### 2. 学会発表

1) Kondo M. Multifocal ERG, Instruction Course. International Society for Clinical Electrophysiology of Vision. 2020/9/13, 海外, Web 口頭発表.

2) 池田康博ら. 網膜色素変性の疾患レジストリの現状～日本網膜色素変性レジストリプロジェクト～. 第 124 回日本眼科学会, 2020 年 4 月.

3) 森實祐基ら. 視覚障害認定の全国調査結果の都道府県別検討. 第 26 回日本糖尿病眼学会総会 (2020 年 web 開催)

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし



厚生労働科学研究費補助金  
難治性疾患政策研究事業  
分担研究報告書

萎縮型加齢黄斑変性に関する調査研究

研究分担者  
関西医科大学・医学部・教授 高橋 寛二  
東京女子医科大学・医学部・教授 飯田 知弘  
九州大学・大学院医学研究院・教授 園田 康平  
京都大学・大学院医学研究科・教授 辻川 明孝

研究要旨：平成 27 年から開始した萎縮型加齢黄斑変性の診断基準に基づいて行った全国 2 次アンケート調査による疫学研究のデータ解析を施行し、日本人の萎縮型加齢黄斑変性症例の疫学的特徴を明らかにした。

A. 研究目的

萎縮型加齢黄斑変性は、高齢者の黄斑部での加齢による網膜色素上皮、視細胞、脈絡膜毛細血管の萎縮性変化、Bruch 膜の肥厚・変性に伴って視機能低下を来す疾患である。滲出型加齢黄斑変性とともに加齢黄斑変性の進行期の病型として分類される。平成 28 年度の難病申請が人数の要件で認められなかったことで、日本のポピュレーションベースの本疾患の有病率を出すために、久山町、長浜町、(参考に舟形町) 各スタディの本疾患の基準を調べ、各スタディを統合させて日本における頻度を出し 0.15%未満であることを証明する。

B. 研究方法

- a. 日本における 3 つの疫学研究から萎縮型加齢黄斑変性の患者数を明確にする。
  - b. 重症度別の頻度を調査する。  
(倫理面への配慮)
- 本疫学研究にあたっては倫理委員会承認のもと調査を行った。(倫理面への配慮)

C. 研究結果

1. 「萎縮型加齢黄斑変性」として指定難病の申請は目指さない方向とする(推定患者数から難しいと考えられる)。

2. 現在まで分析できた萎縮型加齢黄斑変性の日本人データを論文化する(データとして残しておく)。

3. 網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究班としての加齢黄斑変性の研究は継続する。

#### D. 考察、E. 結論

萎縮型加齢黄斑変性に対する対策や治療を考える上で、患者数の明確化と重症度別の頻度調査は重要であると思われる。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

(1) 萎縮型加齢黄斑変性のアンケート調査の結果を英語論文化し、Japanese Journal of Ophthalmology に投稿する準備中である。

##### 2. 学会発表

なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

厚生労働科学研究費補助金  
難治性疾患政策研究事業  
分担研究報告書

網膜色素変性に関する調査研究

研究分担者	千葉大学・大学院医学研究院・教授 山本 修一 宮崎大学・医学部・教授 池田 康博
研究協力者	順天堂大学・医学部・教授 村上 晶 株式会社ビジョンケア・代表取締役社長 高橋 政代 名古屋大学・医学部・教授 西口 康二 大阪大学・大学院医学系研究科・寄附講座教授 川崎 良 神戸アイセンター病院・副病院長 平見 恭介 長崎大学・医学部・講師 大石 明生

研究要旨：網膜色素変性の自然経過の解明を目的に、疾患レジストリの構築などの疫学的研究を行う。

A. 研究目的

網膜色素変性の自然経過を追跡し、予後推測の可能性を検討するために、疾患レジストリならびバイオレポジトリを構築する。さらに病因遺伝子毎の自然歴を検討するために、遺伝子診断のための遺伝子パネル検査法を確立し、遺伝情報を蓄積させるとともに難病プラットフォームとの連携を完了する。

B. 研究方法

オールジャパン体制の疾患レジストリである日本網膜色素変性レジストリプロジェクト（JRPRP）には26施設が参加している。令和2年度も引き続き、参加施設を募りながら、目標である3000症例を達成させる。蓄積された臨床データから重症化の危険因子、予後関連因子などを検討する。並行して、バイオレポジトリを構築し、患者から採取した検体（DNA、血液、眼内液等）を収集する。本疾患は病因遺伝子が多岐に渡るため、病因遺伝子により疾患の自然経過が大きく異なる可能性があり、遺伝子診断は今後必須となることが予想される。そのため、遺伝子パネル検査法を開発する。また、難病プラットフォーム（研究代表者：京都大学 松田文彦先生）との連携については、令和元

年度から準備を進めており、登録項目を選定、登録システム構築の契約締結の後、令和2年度内にシステムの運用を開始する。

(倫理面への配慮)

レジストリに関する研究にあたっては倫理委員会承認のもと登録を行った(研究代表施設：山形大学医学部眼科学)。また、遺伝子診断についても同様に、各施設での倫理委員会承認のもと解析を行った。

#### C. 研究結果

令和2年度末時点で、JRPRPには約3000症例のデータが登録されている。登録された症例の解析により、遺伝形式の分布や、病因遺伝子の診断率や分布などが明らかとなった。また、難病プラットフォームへの移行に関連する倫理審査は、京都大学大学院医学研究科・医学部お呼び医学部附属病院 医の倫理委員会で令和3年3月に承認を受けた。引き続き、データ移行の準備を進めている。

さらに、遺伝子パネル検査法の開発の先立ち、遺伝子検査の保険収載が必須であると考えられたため、「遺伝性網膜疾患に関する遺伝子診断ガイドライン」を作成することとした。ワーキンググループを立ち上げ、現在議論を進めている。

#### D. 考察

疾患レジストリの構築により全国規模での自然経過の調査が可能となり、治療法開発に向けた臨床研究や予後予測に有用な臨床情報の収集が可能になる。さらに、遺伝子診断のガイドラインを作成することにより、遺伝子検査が保険収載されれば、病因遺伝子毎の自然歴が明らかになるだけでなく、今後の遺伝子治療などの新規治療法開発へ繋がる可能性がある。

#### E. 結論

疾患レジストリによる自然経過の研究は、網膜色素変性患者の福祉の向上に寄与する。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

池田康博ら. 日本網膜色素変性レジストリプロジェクトに登録されたデータの解析. 日本眼科学会雑誌. 2021, 125 巻 4 号 : 425-430.

## 2. 学会発表

池田康博ら. 網膜色素変性の疾患レジストリの現状～日本網膜色素変性レジストリプロジェクト～. 第124回日本眼科学会, 2020年4月.

## H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

厚生労働科学研究費補助金  
難治性疾患政策研究事業  
分担研究報告書

黄斑ジストロフィに関する調査研究

研究分担者 三重大学・大学院医学系研究科・教授 近藤 峰生  
研究協力者 名古屋大学・大学院医学系研究科・講師 上野 真治  
東京医療センター・臨床研究センター・視覚生理学研究室・部長 角田 和繁  
東京慈恵会医科大学・葛飾医療センター・准教授 林 孝彰

研究要旨：本研究班が2019年に作成した「黄斑ジストロフィの診断ガイドライン」を基に、日本の主要な眼科施設にアンケートを実施し、日本における黄斑ジストロフィの患者発症数と総患者数を推定した。

A. 研究目的

本年度の研究目的は、日本の主要な眼科施設にアンケートを実施することにより、日本における黄斑ジストロフィの1年あたりの患者発症数と総患者数を推定することである。

B. 研究方法

日本の主要な眼科施設965病院にアンケート用紙を送付した。卵黄状黄斑ジストロフィ（Best病）、Stargardt病（スタルガルト病）、錐体（-杆体）ジストロフィ、X連鎖性若年網膜分離症、中心性輪紋状脈絡膜ジストロフィ、上記のどれにも該当しない黄斑ジストロフィのそれぞれについて、(A)新規患者数（2015年1月～2019年12月の間に新規患者として診察した患者数）と(B)継続患者（2014年12月より以前に診断され、その後継続して診察していた患者数）を調査した。

（倫理面への配慮）

患者の個人情報は一切含めず、診察した患者数のみを調査する形式とした。

C. 研究結果

965施設中626施設から回答が得られた（回答率64.8%）。回答が得られなかった施設に

も同じ割合で患者が発症していると仮定して計算すると、黄斑ジストロフィ全体では1年間に992名の新たな患者が受診しており、日本全体の患者数は約12600名であることがわかった。7つの具体的な黄斑ジストロフィの1年発症数と総患者数についても結果が得られた。

#### D. 考察

専門家でない眼科医師の診断も含まれており、確定診断の信頼性には疑問が残るが、日本で初めてこのような調査が行われ、患者数推定ができた意義は大きい。

#### E. 結論

日本で初めて黄斑ジストロフィのおおよその患者数の推定ができた。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

1) Yang L, Joo K, Tsunoda K, Kondo M, et al; East Asia Inherited Retinal Disease Society Study Group. Spatial Functional Characteristics of East Asian Patients With Occult Macular Dystrophy (Miyake Disease); EAOMD Report No. 2. Am J Ophthalmol. 2021, 221, 169-180.

2) 近藤峰生. 黄斑ジストロフィの診断ガイドラインについて. OCLISTA 96 (増大号): 17-24. 2021.

##### 2. 学会発表

1) Kondo M. Multifocal ERG, Instruction Course. International Society for Clinical Electrophysiology of Vision. 2020/9/13, 海外, Web 口頭発表.

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし

厚生労働科学研究費補助金  
難治性疾患政策研究事業  
分担研究報告書

近視性脈絡膜萎縮に関する調査研究

研究分担者 東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究科・教授 大野京子  
九州大学・大学院医学研究院・教授 園田 康平  
旭川医科大学・医学部・客員教授 柳 靖雄

研究協力者 京都大学・医学研究科・特定助教 三宅 正裕  
大阪大学・大学院医学系研究科・寄附講座教授 川崎 良  
鹿児島大学病院・感覚器センター眼科・医員 白澤 誠

研究要旨：近視性脈絡膜萎縮を呈する病的近視患者において、家族性の遺伝形式を有する症例に対し調査を行った。

A. 研究目的

病的近視による近視性脈絡膜萎縮を呈する症例の中に、メンデル遺伝形式に沿う家族集積性を有する症例がある。これらの家系を集積し、原因遺伝子を明らかにする。

B. 研究方法

東京医科歯科大学先端近視センターの受診患者の中で、メンデル遺伝形式に沿う家族集積性を有する症例を、電子カルテデータから後ろ向きに抽出する。これらの症例に対し、眼底写真や OCT などの臨床データの解析に加え、遺伝子解析を行い原因遺伝子を突き止める。

(倫理面への配慮)

本研究に対し、東京医科歯科大学遺伝子解析にかかわる倫理委員会の承認を得ている。

C. 研究結果

メンデル遺伝形式に沿う家族集積性を有する症例が 5 家系抽出された。臨床像は家系内で非常に類似しており、特に超広角 OCT による後部ぶどう腫のタイプや範囲が酷似していた。家系内で罹患者、および非罹患者の協力を得て、採血を進めている。しかしコロナの感染影響のため、研究停止期間および外来制限期間があり、検体収集の途中であ



る。

#### D. 考察

病的近視の中には明らかな常染色体優性遺伝を示す症例が少なからずいる。これらの遺伝子解析により病的近視発症のリスクのある小児を早期に同定することが可能になると期待される。

#### E. 結論

病的近視による近視性脈絡膜萎縮には家族集積性を有する遺伝子変異があると考えられる。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 学会発表

なし

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし

厚生労働科学研究費補助金  
難治性疾患政策研究事業  
分担研究報告書

家族性滲出性硝子体網膜症に関する調査研究

研究分担者 産業医科大学・医学部・教授 近藤 寛之  
研究協力者 近畿大学・医学部・教授 日下 俊次  
国立成育医療研究センター・眼科診療部長 仁科 幸子  
大阪大学大学院医学系研究科・寄附講座教授 川崎 良  
山形大学・大学院医学系研究科・講師 金子 優

研究要旨：家族性滲出性硝子体網膜症（FEVR）は網膜血管の形成不全に起因する遺伝性疾患である。FEVRは遺伝的に多様な疾患であるだけでなく、全身疾患の併発を認める症例がある。類縁疾患と考えられる疾患を含め、診断および治療法の確立には疾患概念に関する再構築が必要であり、臨床像と遺伝学的所見の相関を含めた解析を行った。

A. 研究目的

家族性滲出性硝子体網膜症（FEVR）は網膜血管の形成不全に起因する遺伝性疾患である。重症例では網膜剥離を合併し失明など重度の視機能障害をおこす。遺伝的な多様性があり、複数の原因遺伝子が報告されている。近年は小頭症などの全身疾患を併発する症例が報告され、疾患概念に関する再構築が求められている。そのためには臨床的特徴の再確認とともに遺伝学的検討が不可欠であり、本疾患の臨床的特徴を掘り下げることが目的に研究を行った。

B. 研究方法

4大学病院（産業医科大学、近畿大学、慈恵医科大学、福岡大学）をコア施設として、これまで蓄積されたFEVRの症例について、臨床所見の再確認を行った。遺伝学的検討についてはこれまで行われてきた解析を再評価し、疾患頻度などの疫学的検討を行った。

（倫理面への配慮）

症例の臨床所見の取得と遺伝子解析については各施設にて倫理承認を受けている。

### C. 研究結果

乳児から成人までの孤発例を含む 230 家系を対象とした解析で、発端者が乳児例であるのが 150 家系、若年例 80 家系であり、このうち全身疾患の併発を認めたものが 28 家系みられた。遺伝子解析にて小頭症合併 FEVR と診断した症例が 8 家系、類縁疾患である Norrie 病と診断した症例が 7 家系あった。全身疾患併発で原因の明らかでない症例が 14 家系あった。既知の遺伝子解析で遺伝子異常が見つかった家系は全体の 43%であった。

### D. 考察

コア施設による解析で全身疾患の併発を含む臨床像や遺伝子多様性が明らかとなった。これまでの解析では半数以上の家系では原因遺伝子が同定されず、遺伝子異常が見つかった家系でも遺伝子異常と家系内の罹患者の分布が一致しない家系があった。遺伝子異常が検出されていない家系を含め、さらに詳細な遺伝的検討が疾患概念に関する再構築に資すると思われる。

### E. 結論

FEVR は遺伝的に多様な疾患であるだけでなく、全身疾患の併発を認める症例がある。類縁疾患と考えられる疾患を含め、診断および治療法の確立には疾患概念に関する再構築が必要である。

### F. 健康危険情報

なし

### G. 研究発表

#### 1. 論文発表

なし

#### 2. 学会発表

なし

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

### H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

#### 1. 特許取得

なし

#### 2. 実用新案登録

なし

3. その他  
なし

厚生労働科学研究費補助金  
難治性疾患政策研究事業  
分担研究報告書

黄斑部毛細血管拡張症2型に関する調査研究

研究分担者

東京女子医科大学・医学部・教授 飯田 知弘  
京都大学・大学院医学研究科・教授 辻川 明孝  
旭川医科大学・医学部・客員教授 柳 靖雄  
琉球大学・大学院医学研究科・教授 古泉 英貴

研究要旨：黄斑部毛細血管拡張症 2 型は視力障害の原因となり、治療法が確立されていない疾患である。国際的にも診断基準がないため、厚生労働省網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班を中心として、我が国における診療ガイドラインを作成中である。

A. 研究目的

黄斑部毛細血管拡張症 2 型は視力障害の原因となり、治療法が確立されていない疾患である。国際的にも診断基準、診療ガイドライン、手引き等はないため、我が国における診療ガイドラインを作成することを目的に研究を行った。

B. 研究方法

診療ガイドラインを作成するために、過去に黄斑部毛細血管拡張症 2 型に関して報告されている論文を調査して、それぞれの研究で診断を行った検査所見などを抽出した。その上で、海外と国内の症例比較、診療ガイドラインに用いる症例の調査を行った。

(倫理面への配慮)

診療ガイドラインの作成であるので、倫理的問題はない。

C. 研究結果

黄斑部毛細血管拡張症 2 型診療ガイドライン (案) を作成した。症例画像に関しては、本邦では疾患症例数が少ないため、典型症例を選別して診療ガイドラインを作成する。

D. 考察

診療ガイドラインを作成することにより、疫学研究や将来のデータベース化に有用になると思われる。この成果を学会誌に今後発表予定である。

E. 結論

診療ガイドラインの策定は黄斑部毛細血管拡張症 2 型患者の福祉向上に寄与する。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

厚生労働科学研究費補助金  
難治性疾患政策研究事業  
分担研究報告書

急性帯状潜在性網膜外層症に関する調査研究

研究分担者 九州大学・大学院医学研究院・教授 園田 康平  
三重大学・大学院医学系研究科・教授 近藤 峰生  
東京女子医科大学・医学部・教授 飯田 知弘  
研究協力者 東京慈恵会医科大学眼科学教室・准教授 林 孝彰

研究要旨：急性帯状潜在性網膜外層症 (acute zonal occult outer retinopathy, AZOOR) は眼底には目立った所見を示さず、急激に視力低下や視野欠損を生じる網膜疾患である。現時点では原因も不明であるが、AZOOR は決して稀な疾患ではなく、一般の眼科医が疾患を正しく理解し診断するためのガイドラインが必要であった。現在我々はこれまでの文献や専門家の意見を参考にして、厚生労働省網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班を中心として、診断ガイドラインを作成した。今後は患者数の把握と適切な対処法を追求していくことが大切である。

A. 研究目的

AZOOR は、1992 年に Gass が提唱した比較的新しい疾患概念である。若年女性に好発し、光視症を伴って急激な視野欠損で発症し、網膜外層を傷害することがわかっている。去年までに診断基準・重症度分類ができています。診療ガイドラインは日本眼科学会雑誌に掲載済みなので、令和 2 年度の主な目標は患者数調査である。

B. 研究方法

AZOOR の実態を調査するために、令和 2 年度全国 965 施設にアンケートを送り患者数を調査した。

(倫理面への配慮)

個人情報の特定されないアンケート調査であり、倫理的問題は生じない。

C. 研究結果

637 施設から回答を得た (回答率 66%)。その結果年間 AZOOR の発症数は 200 強名であ

った。それまでに報告されているアズールの数を合わせて、現在日本に 1000 人強の患者がいることが判った。

#### D. 考察

診療ガイドライン作成により、こうしたいろいろな疫学調査が可能となり、治療法開発に向けた臨床研究や予後予測に有用な臨床情報の収集が可能になると思われる。この成果を学会誌に今後発表予定である。

#### E. 結論

現在日本に 1000 人強の患者がいる。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 学会発表

なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし



厚生労働科学研究費補助金  
難治性疾患政策研究事業  
分担研究報告書

レーベル遺伝性視神経症に関する調査研究

研究分担者 神戸大学・大学院医学研究科・教授 中村 誠  
研究協力者 北里大学・医療衛生学部・視覚機能療法学・教授 石川 均  
兵庫医科大学・医学部・講師 石川 裕人

研究要旨：2019年に新規発症した、ミトコンドリア遺伝子 3460, 11778, 14484 変異のいずれかを有するレーベル遺伝性視神経症 (LHON) 患者を推計するためのアンケートを日本眼科学会専門医制度認定施設と日本神経眼科学会評議員所属施設の合計 1024 施設に送付した。また、LHON の全数調査を目指して、web レジストリフォーマットを構築した。

A. 研究目的

レーベル遺伝性視神経症 (LHON) は、ヒトで初めて関連性が見いだされたミトコンドリア遺伝子疾患である。主に若年男性の両眼視神経が亜急性に冒され、重篤な中心視機能障害を呈する。ミトコンドリア遺伝子 3460, 11778, 14484 変異を有する患者が日本人では 90%程度とされる。アンケートに基づく疫学調査で、2014 年の新規発症患者数は約 120 人、よって 100 万人に一人の発症率と推計された。しかし、単年のみの調査であり、正確性に乏しく、また総患者数の推計には至らなかった。このため、再度アンケート調査を行い、2019 年の新規発症患者数を推計し、2014 年推計値との比較を行う。さらに、全数調査を行うため、患者レジストリを構築することとした。

B. 研究方法

日本眼科学会専門医制度認定施設と日本神経眼科学会評議員所属施設の合計 1024 施設に、2019 年に新規発症して受診した、3460、11778、14484 変異を有する患者数ならびに発症年齢と性別を問うアンケート調査用紙を送った。既報 (Ueda et al. J Epidemiol 2017;27(9):447-450) に基づき、回収率で補正した新規発症者数を推計する。

また、全数調査を行うため、登録施設、性別、発症年齢、罹病期間、遺伝子変異部位、認定基準における診断カテゴリー、診断施設、家族歴、使用薬剤、身体・精神疾患の合

併、他のミトコンドリア病の合併、最低視力、その後の1年ごとの視力を記載するレジストリを構築する。レジストリは日本神経眼科学会評議員が登録することとする。

(倫理面への配慮)

アンケート調査は個別の患者情報を抽出しないため、各施設における倫理委員会申請は行わない。代表施設である神戸大学の倫理委員会の承認を得る。レジストリ調査に関しては、日本神経眼科学会評議員所属施設で倫理委員会の承認を得る。

#### C. 研究結果

2020年に上記施設にアンケート用紙を送付し、現在回収中である。また、神戸大学の倫理委員会での承認を得た。レジストリフォームを構築し、神戸大学の倫理委員会での承認を得たので、可及的速やかに共同研究施設の倫理委員会への申請を行う予定である。

#### D. 考察

2021年度中にはアンケート回収と解析を行い、2019年の新規発症者数を推計できると思われる。2014年のそれと比較することで、前回の推計数の正確性を検証できる。もし推計数が一致していれば、全数の推計も行えると思われる。レジストリの活用が行われれば、正確な全数を把握でき、臨床像の把握が可能となると思われる。

#### E. 結論

今回の研究は、我が国におけるLHON患者数並びに遺伝学的・臨床的特徴を把握する重要な疫学調査となると考える。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 学会発表

なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

厚生労働科学研究費補助金  
難治性疾患政策研究事業  
分担研究報告書

視覚身体障害者認定の実態疫学調査

研究分担者 鹿児島大学・医歯学域医学系・教授 坂本 泰二  
研究協力者 岡山大学・大学院医歯薬学総合研究科・教授 森實 祐基  
大阪大学・大学院医学系研究科・寄附講座教授 川崎 良

研究要旨：全都道府県全自治体を対象とした視覚障害認定の 2019 年度の実態調査を実施した。また、前回調査（2015 年度）の調査結果を都道府県別に解析し、都道府県別の高齢化率、身体障害者福祉法第 15 条指定眼科医師数の割合が視覚障害の認定割合に有意に関連すること明らかにした。

A. 研究目的

我が国の視覚障害認定の実態調査は身体障害者診断書・意見書に基づいて、1988 年、2006 年、2010 年の 3 回行われているが、欧米諸国と比較してその調査頻度は極めて少ない。また、これらの調査における調査対象は無作為に選別された 7 都道府県の各 1 自治体であり、全国の実態を反映していない可能性がある。そこで、我々は本難治性疾患政策研究事業においてより頻繁に実態調査を行えるようなシステムを構築し、全都道府県全自治体を対象とした視覚障害認定の実態調査を本邦において初めて 2015 年度に実施した。今回 2019 年度を対象に再調査を行い、前回調査との比較を行う。また、2015 年度の調査結果を都道府県別に解析し、都道府県別の視覚障害の認定割合に関連する因子を明らかにする。

B. 研究方法

- 1) 視覚障害認定の実態調査：全都道府県の全自治体を対象に、身体障害者福祉法による身体障害者診断書・意見書に基づき、新規に視覚障害認定を受けた 18 歳以上の視覚障害者の年齢、性別、原因疾患、等級について、アンケート調査を行う。
- 2) 2015 年度の調査結果の都道府県別解析：2015 年度調査のデータを用いて、都道府県別の認定割合と関連のある因子について統計学的に検討する。

(倫理面への配慮)

疫学調査は、倫理委員会で審査を受けた上で実施する。なお、本研究で扱うデータは個人を特定できないデータのみである。

#### C. 研究結果

- 1) 視覚障害認定の実態調査：2021年3月末までに、全国の全ての福祉事務所から回答を得た。現在、データ解析を行っている。
- 2) 2015年度の調査結果の都道府県別解析：都道府県別の高齢化率、身体障害者福祉法第15条指定眼科医師数の割合が都道府県別の視覚障害の認定割合に有意に関連した。

#### D. 考察

視覚障害認定の実態調査については、コロナ禍にも関わらず、予定通り全ての福祉事務所から回答を得ることが可能であった。今後、得られたデータを解析し、全国及び都道府県別の動向を明らかにする。また前回調査の結果と比較検討する。2015年度の調査結果の都道府県別解析については、従来調査よりも確度の高いデータを用いて、本邦で初めて各都道府県別の視覚障害認定の実態を明らかにすることができた。今後行われる調査の比較検討基準になる成果が得られたと考える。

#### E. 結論

視覚障害認定の全国実態調査を2019年度に実施した。また、前回調査（2015年度）の調査結果を都道府県別に解析し、都道府県別の高齢化率、身体障害者福祉法第15条指定眼科医師数の割合が視覚障害の認定割合に有意に関連すること明らかにした。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

森實祐基，守本典子，川崎良，藤原篤之，的場亮，山下英俊，小椋祐一郎，白神史雄，視覚障害認定の全国調査結果の都道府県別検討，日本眼科学会誌 124：697-704，2020

##### 2. 学会発表

第26回日本糖尿病眼学会総会(2020年web開催)

森實祐基，守本典子，川崎良，藤原篤之，的場亮，山下英俊，小椋祐一郎，白神史雄，視覚障害認定の全国調査結果の都道府県別検討

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

雑誌					
発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
近藤峰生ら	Spatial Functional Characteristics of East Asian Patients With Occult Macular Dystrophy (Miyake Disease); EAOMD Report No. 2	American Journal of Ophthalmology	Volume 221	169-180	2021
近藤峰生	黄斑ジストロフィの診断ガイドラインについて	OCLISTA	96 (増大号)	17-24	2021
池田康博ら	日本網膜色素変性レジストリプロジェクトに登録されたデータの解析	日本眼科学会雑誌	125 巻 4 号	425-430	2021
森實祐基ら	視覚障害認定の全国調査結果の都道府県別検討	日本眼科学会誌	124 巻	697-704	2020

令和3年5月14日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人鹿児島大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 佐野 輝



次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 学術研究院医歯学域医学系・教授  
(氏名・フリガナ) 坂本 泰二 ・ サカモト タイジ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

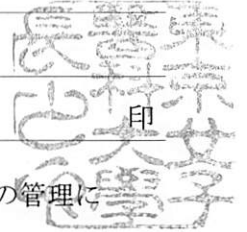
(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 東京女子医科大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 丸 義朗



次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
- 2. 研究課題名 網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部・教授  
(氏名・フリガナ) 飯田 知弘・イイダ トモヒロ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査(※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由 : )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関 : )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由 : )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容 : )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。



令和 3 年 1 月 13 日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人東京医科歯科大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 田中 雄二郎



次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医歯学総合研究科 教授  
(氏名・フリガナ) 大野 京子 (オオノ キョウコ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	東京医科歯科大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。



令和 3年 5月 12日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 琉球大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 西田 睦



次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医学研究科 教授  
(氏名・フリガナ) 古泉 英貴・コイズミ ヒデキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 3 年 5 月 7 日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 産業医科大学  
所属研究機関長 職名 学長  
氏名 尾辻 豊

次の職員の令和 2 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部・教授  
(氏名・フリガナ) 近藤 寛之・コンドウ ヒロユキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	産業医科大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	産業医科大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 3 年 4 月 2 1 日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人三重大学  
所属研究機関長 職名 学長  
氏名 伊藤 正明



次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学系研究科・教授  
(氏名・フリガナ) 近藤 峰生・コンドウ ミネオ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和3年3月31日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人九州大学

所属研究機関長 職名 総長

氏名 石橋 達朗



次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究

3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医学研究院・教授

(氏名・フリガナ) 園田 康平・ソノダ コウヘイ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 3 年 4 月 22 日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 関西医科大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 友田 幸一

次の職員の令和 2 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部 ・ 教授
- (氏名・フリガナ) 高橋 寛二 ・ タカハシ カンジ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	関西医科大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。



令和 3年 4月 22日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 京都大学

所属研究機関長 職 名 医学研究科長

氏 名 岩井 一宏 印



次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究

3. 研究者名 (所属部局・職名) 眼科・教授

(氏名・フリガナ) 辻川 明孝・ツジカワ アキタカ

#### 4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

#### その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

#### 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

#### 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 3年 5月 11日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人神戸大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 藤澤 正人 印



次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
- 2. 研究課題名 網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医学研究科・教授  
(氏名・フリガナ) 中村 誠・ナカムラ マコト

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input checked="" type="checkbox"/>	神戸大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和3年4月27日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 旭川医科大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 吉田 晃敏



次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部・客員教授
- (氏名・フリガナ) 柳 靖雄・ヤナギ ヤスオ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する口にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。



令和 3 年 3 月 24 日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人千葉大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 徳久 剛史

印



次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医学研究院・教授  
(氏名・フリガナ) 山本 修一・ヤマモト シュウイチ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理


当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人 宮崎大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 池ノ上 克 

次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部・教授  
(氏名・フリガナ) 池田 康博・イケダ ヤスヒロ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

- (留意事項)
- ・該当する□にチェックを入れること。
  - ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。